

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：生殖医学検査研究班 提出日：2019年4月28日 報告者：小笠原恵

行事種別	講演会	行事番号	190000459	
開催日	2019年4月6日(土)			
時間	開始	15時30分	終了	17時00分
場所	社会医療法人財団新和会 八千代病院(所在地 安城市)			
テーマ	不妊症看護認定看護師			
生涯教育履修数	専門教科 20点			
司会	小牧市民病院	藤田 京子		
講師	トヨタ記念病院	看護科	吉川 典子	
	社会医療法人財団新和会 八千代病院	看護部	高須 初恵	
内容	<p>不妊症看護認定看護師とは、日本看護協会の定めた不妊症看護に関する認定審査を合格した看護師であり、愛知県に数名しか在籍しない。その中でも現場で活躍されている2名の不妊症看護認定看護師の方に貴重なご講演をいただいた。まずトヨタ記念病院 看護科 吉川典子看護師から「不妊症看護認定看護師の活動と役割」について講演された。院内における具体的な役割をCNニュース(認定看護師発信情報)や院内研修として不妊看護をアピールし、不妊症看護認定看護師の立場の確立と啓蒙を目的として活動されていることを説明された。また院内講義としてがんジェネラリスト養成講座や不妊治療で使用する薬剤についての活動内容を話された。不妊症に関わる様々な事象を不妊症看護認定看護師が関わることで何が変わるのかまた何を求められているのかを常に考えておられ日々啓蒙活動にご尽力されていることがよく理解できた。次に社会医療法人財団新和会八千代病院 看護部 高須初恵看護師から「胚培養士との協働～看護職から胚培養士に期待すること～」について講演された。胚培養士の必須業務を挙げ、患者から胚培養士に期待されていることを具体的に看護師の立場から示された。妊娠出産に向けて高度な技術を提供すること、それに関わる情報提供と結果の説明を前提に、患者は医師でもなくまたカウンセラーでもなく私たち胚培養士に受精卵や生殖補助医療についての説明を求めていることがわかった。また専門職としてより高度な技術やチーム医療としてのコミュニケーションも必要であり不妊症看護認定看護師として求めている胚培養士像を的確に話していただいた。生殖補助医療に関わる臨床検査技師や胚培養士は、現在の不妊治療には不可欠な存在であり、より不妊症患者の近くに寄り添い、且つチーム医療の一員として日々精進していかなければならないと深く痛感した。</p>			
参加者	総数：19名(会員 17名、非会員2名(講師2名)、賛助会員0名、学生0名、その他0名)			
共催、後援など				

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生殖医学検査研究班 提出日：2019年 7月20日 報告者：小笠原恵

行事種別	研究会	行事番号	190007513	
開催日	2019年 7月 6日 (土)			
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了	17 時 00 分
場 所	シスメックス リップルスクエア (所在地 名古屋市)			
テーマ	精液検査と人工授精			
生涯教育履修数	専門教科 20 点			
司 会	竹内産婦人科	榊原 重久		
講 師	小牧市民病院	藤田 京子		
	JA 愛知厚生連 江南厚生病院	伊藤 康生		
	豊橋市民病院	鈴木 範子		
内 容	<p>研究会のテーマは「精液検査と人工授精」とし、3施設での具体的な人工授精の方法や精液検査についてご講演いただいた。まず1施設目として「当院における人工授精(密度勾配法)」藤田京子技師にご講演いただいた。基礎的な不妊の原因や妊娠の成り立ちを冒頭にあげ人工授精を全く実施していない施設にも分かり易く説明された。密度勾配法は遠心機と培養液があれば実施できるため多くの施設がこの方法で人工授精を実施している。小牧市民病院の実際の方法を写真で示し、使用している器具や方法をとても良く理解することができた。2施設目として「当院における精液調整法(swim up法)について」伊藤康生技師にご講演いただいた。swim up法は、生殖補助医療(ART)において最も一般的に用いられている精液調整法である。検体の取り扱いについて、不妊治療の中で最も注意をすべきところの検体認証の部分を、同時に違う患者の検体を取り扱うことがないように具体的に院内で実施している方法を説明され、とても参考になった。3施設目として「MS法を利用した運動精子回収法による人工授精」鈴木範子技師にご講演いただいた。MS法は遠心沈降操作を必要とせず精子の特性を利用した精子回収法である。大がかりな器具を使用しないため簡便でありまた精子へのダメージを最小限にすることができる。次に精液検査全般をわかりやすく説明していただいた。精液検査は年間数例しかない施設もある。精液検査を標準化するにあたり様々なガイドラインを参照に精液検査がよりスムーズに実施できるよう分かり易く教えていただいた。今回の研究会のテーマは、一般不妊治療の基礎である精液の内容であった。精液検査や人工授精は様々な方法があり施設間の情報を交換し、今以上に妊娠率の向上に貢献していきたい。</p>			
参加者	総数：28名(会員28名、非会員0名、賛助会員0名、学生0名、その他0名)			
共催、後援など				

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：生殖医学検査研究班 提出日：令和元年 12月 23日 報告者：小笠原 恵

行事種別	研究会	行事番号	190024084	
開催日	令和 元 年 12月 7日 (土)			
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了	17 時 00 分
場 所	社会医療法人財団新和会 八千代病院 (所在地 安城市)			
テーマ	良い胚盤胞は、良い精子と良い卵子から ~Review for oocyte/sperm~			
生涯教育履修数	専門教科 20 点			
司 会	藤田医科大学病院	古川 博		
講 師	Cook Japan 株式会社	岡本 加奈子		
内 容	<p>生殖補助医療の大元である精子と卵子の基本をわかりやすく培養液メーカーCook Japanの岡本氏にご講演いただいた。内容は、まず卵子の役割から「受精の時の栄養を担当する」を小テーマとして物質代謝の異化と同化を説明された。ピルビン酸やmRNA, アミノ酸の必要性を模式図で非常にわかりやすく示され、後に体外受精時の採卵時に使用する培養液の必要性に繋がる内容となっていた。またPHや浸透圧、温度が如何に卵子にとって重要であり、どのくらい影響があるのか、話を聞いて日々の業務の見直しを常に考えさせられた。次に精子の役割として「受精の時、運動を担当する」を小テーマとして自分でエネルギーを確保するため精子の構造や精漿の必要性をお話しされた。業務で毎日精子処理をするが、実際何のために精漿があるのかあまり考えたことがなかったが、精子をコーティングして、卵子に辿り着くまでに受精能を保護するためと改めて知ることができた。私たちは、培養の成績維持のために常に妊娠率を意識している。その指標として胚盤胞がある。胚盤胞は胚移植において妊娠しやすい胚であり胚盤胞に到達した率やグレードを統計し日々の業務の判断基準にしている。その胚盤胞もすべては1個の卵子と1個の精子からなり採卵直後の卵子や精子処理が如何に胚盤胞に直結しているか、見直すべき点があるとするならどの時点を考えればよいのかを痛感させられた。今回は日々の業務に即戦力としての内容となっており、非常に有意義な研究会となった。</p>			
参加者	総数 22 名 (会員 19 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 3 名 (培養メーカー講師 1 名付き添い 2 名))			
共催、後援など				